

第 4 章 プログラム評価（レビュー）

プログラム評価（レビュー）は、第 1 章 3（3）で述べたとおり、実績評価の結果や社会情勢等を踏まえ、テーマを選定し、総合的で掘り下げた分析・評価を実施することにより、施策や業務実施の見直しや改善につなげるものです。

プログラム評価は、国土交通省が、省内で行われる同種の目標を持つ施策等を一括してプログラムとしてとらえ政策評価の対象としますので、気象庁は国土交通省をはじめとした関係部局と協力して評価を実施しています。

国土交通省では、政策課題として重要なものや、国民から評価に対するニーズが高いものなどの観点から、平成 16 年度以降、21 のテーマについてとりまとめることとしました。各テーマの内容及び評価結果をとりまとめた評価書は、国土交通省の政策評価に関するホームページ（<http://www.mlit.go.jp/hyouka/index.html>）で公開されています。

気象庁は、平成 16 年度に「台風・豪雨等に関する気象情報の充実 - 災害による被害軽減に向けて」の評価書を作成しました。評価結果の要旨は表 4 - 1 のとおりです。さらに詳細については、国土交通省の政策評価に関するホームページでご覧下さい。

また、気象庁が関係し、平成 17 年度に国土交通省でとりまとめられるプログラム評価のテーマは次の 2 つで、評価書作成に向けて作業を進めています。

総合的な海上交通安全施策 海上における死亡・行方不明者の減少

国土交通行政におけるテロ対策の総合点検

（表 4 - 1）

（評価書の要旨）

テーマ名	台風・豪雨等に関する気象情報の充実 - 災害による被害軽減に向けて -	担当課 (担当課長名)	気象庁予報部業務課 (課長 瀬上 哲秀)
評価の目的、必要性	近年の防災施設の整備、災害時の防災対応の改善により、風水害による死者数は、ここ数十年の間に、長期的には大きく減少しているが、平成 16 年に多発した豪雨や台風による被害でも明らかなように、豪雨・台風等に関する防災対策は、依然として重要な課題である。こうした災害をできる限り軽減するため、台風・豪雨等に関する気象情報を充実する必要があることから、評価を実施する。		
対象政策	気象庁が発表する台風・豪雨等に関する防災気象情報。		
政策の目的	台風・豪雨等に伴う災害の防止・軽減を目的とする。		
評価の視点	防災機関、一般国民等、利用者の観点から、台風・豪雨に関する気象情報が防災対策に有効に活用されているか。		
評価手法	アンケート、聞き取り調査による結果を既往調査結果と併せて分析し、有識者からの意見をふまえて評価。		
評価結果	<p>台風・豪雨に関する防災気象情報については、概ね高い満足度が得られていた。全国自治体を含めた防災関係機関へのアンケート調査（平成 16 年度防災気象情報に関する満足度調査）によると、大雨情報、台風情報に対する満足度について、「満足」または「まあ満足」と回答した合計はそれぞれ 87%、92%であった。</p> <p>平成 16 年度の「防災気象情報の活用に関する調査」では、平成 16 年の風水害で被害のあったいくつかの市町村や住民を対象にアンケートと聞き取りによる調査を行い、平成 16 年の風水害の経験も踏まえた課題の抽出を行った。この他、平成 14 年度に「土砂災害に関する雨量情報の特性調査」、平成 15 年度に「防災気象情報の高度化に関わる勉強会」を実施し、気象庁からの情報の受け手となる、自治体や住民からの要望や課題を把握した。</p> <p>これまでも、改善の要望について様々な対策を講じることにより、これに応えているが、これらの調査により、次の事項について更に改善すべき課題が明らかとなった。</p> <p>（台風に関する気象情報）</p> <ul style="list-style-type: none"> 数時間先の台風予報 <ul style="list-style-type: none"> 12,24 時間予報より短い間隔の予報への要望 3 日より先の台風予報 <ul style="list-style-type: none"> 3 日より先の予報の要望 進路予報の表示方法 <ul style="list-style-type: none"> わかりやすい表示方法への改善要望 予報誤差が十分表現できていない 風・雨情報 <ul style="list-style-type: none"> 災害との対応の観点から最大瞬間風速による台風情報への要望 台風予報の図情報 <ul style="list-style-type: none"> 地域毎・台風毎の暴風の状況についての情報提供への要望 熱帯低気圧に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 事前の準備のため、台風になる前の熱帯低気圧の情報への要望 台風から変わった温帯低気圧に関する情報 <ul style="list-style-type: none"> 温帯低気圧化した台風について警戒を継続するため、報道機関等からのわかりやすい情報提供への要望 高潮についてのきめ細かい予測情報 <ul style="list-style-type: none"> 地域特性を踏まえた、きめ細かい高潮予測情報等の提供への要望 		

	<p>高潮に関する情報の高度化 警報等と防災対応の関係が不明確 高潮に関する認識の共有化 住民等が高潮の現象を必ずしも正しく認識していない</p> <p>（豪雨等に関する気象情報） 防災気象情報の役割の明確化 警報等と防災対応の関係が不明確。このため、避難勧告等の発令等に有効に利用されていない 土砂災害に関する警報 想定される災害の種類を明示した情報への要望 降水終了後、土砂災害への警戒のために大雨警報を継続していることがわかりにくい 中小河川の洪水警報の高度化 想定される災害の地域（河川）や時間を絞り込んだ情報への要望 市町村を対象とした警報等の発表 災害をもたらす現象は、地域的、時間的に限定されて集中的に発生することが多い 市町村名が明示されず緊迫感が薄い</p>
<p>政策への反映の方向</p>	<p>更に防災活動に有効な防災気象情報とするため、各課題について改善に努める。 【短期】は 2 年程度の実施を、【中期】は 5 年程度での実施をめざすことを示す。</p> <p>（台風に関する気象情報） 数時間先の台風予報 日本付近では 24 時間までは 3 時間刻みの時間帯を対象とした予報を実施【短期】 3 日より先の台風予報 精度と情報提供のあり方に留意しつつ、新たな技術を取り入れ 3 日以上先の予報を目指す【中期】 進路予報の表示方法 視覚的に分かりやすい表現方法を報道機関等で可能となるよう検討。報道機関とも協議の上、一定の考え方を整理。【短期】 風・雨情報 台風の強さの指標として最大瞬間風速による情報を提供【短期】 台風予報の図情報 風・雨の分布状態を分かりやすく示す新たな情報提供の検討【中期】 熱帯低気圧に関する情報 日本に大きく影響する熱帯低気圧について、台風に準じた情報提供を検討【短期】 台風から変わった温帯低気圧に関する情報 台風から変わった後も、台風情報に準じた情報提供を検討【短期】 高潮についてのきめ細かい予測情報 部外機関の潮位観測データの一層の共有化【短期～中期】 高潮モデルの技術開発を推進【中期】 高潮に関する情報の高度化 警報等のリードタイム、発表基準等を避難勧告等の基準に適合させ、防災対応の各段階に適合した情報を発表。【短期～中期】 高潮に関する認識の共有化 平常時から高潮に関する知識等の普及・啓発に努める。【短期】</p> <p>（豪雨等に関する気象情報）</p>

	<p>防災気象情報の役割の明確化 警報等のリードタイム、発表基準等を避難勧告等の基準に適合させ、防災対応の各段階に適合した情報を発表【短期～中期】</p> <p>土砂災害に関する警報 H17年度以降準備の出来たところから土砂災害警戒情報を運用【短期】 土砂災害に関する警報等を発表（大雨警報等から独立）【中期】</p> <p>中小河川の洪水警報の高度化 技術開発を進め、可能な限り地域を絞り込んだ洪水警報等を目指す【短期～中期】</p> <p>市町村を対象とした警報等の発表 市町村を対象とした警報を目指す【中期】</p>
<p>第三者の知見活用</p>	<p>第5回、第6回交通政策審議会気象分科会において意見を聴取（議事概要についてはホームページに掲載） http://www.mlit.go.jp/singikai/koutusin/koutusin.html</p> <p>(委員)</p> <p>井口雅一（東京大学名誉教授）(分科会長) 佐和隆光（京都大学経済研究所所長） 島崎邦彦（東京大学地震研究所教授） 宮本一子（(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会消費生活研究所長） 廻洋子（淑徳大学講師） 森地茂（政策研究大学院大学教授） 石井和子（気象予報士会会長） 小櫃眞佐己（(社)日本民間放送連盟報道委員会委員） 木本昌秀（東京大学気候システム研究センター教授） 重川希志依（富士常葉大学環境防災学部教授） 新野宏（東京大学海洋研究所教授） 山崎登（日本放送協会解説委員）</p> <p>評価にあたり、国土交通省政策評価会から意見を聴取（議事概要についてはホームページに掲載）</p>
<p>実施時期</p>	<p>平成15年度～平成16年度</p>